

推薦人：インターネット協会 木下 剛

## WS #128 Global crises and socially responsible data responses

### デジタル化社会におけるデータ共有・連携モデルのケーススタディと課題の検討 - 新型コロナパンデミックから -



#### Data

Contribute to identifying best approaches to ensure the development of human-centric data governance frameworks at national, regional and international levels.

このワークショップは、**デジタル化社会におけるデータ共有モデル**が提供する機会を評価し、責任あるデータ共有を支援するために**必要な技術的要素と政策的要素**の両方について理解を深めます。

具体的には、データ共有政策の**グッド・プラクティス**を、**Covid-19による世界的な危機的状況**における**経験を共有**し、同時にそのような取り組みが安全で、人権を尊重し、平等に役立つものであることを保証するために**留意しなければならないデータ保護とプライバシーへの配慮に求められる政策要素**を議論し、今後のアクションが求められる領域と、検討すべき潜在的な疑問点を浮き彫りにすることを目的としています。

背景：インターネット利用におけるデータは、経済的機会、技術革新、社会的進歩、**SDG**と密接に関係し、同時に、セキュリティ、プライバシー、ローカリゼーションなどの問題の主要な構成要素でもあります。

**COVID-19**パンデミックの危機へ対処するために**官民で**様々な利害関係者が自由にデータを共有するための**多くのデータ共有・連携イニシアチブに取り組み**、これら共有化されたデータの活用により政府、公共サービス機関、企業、個人が、健康、人道、環境などの重大な危機の状況把握、予測、予防対処に役立てられています。しかし同時に、これらの取り組みにより、データ保護やセキュリティ、個人データの利用に関するプライバシーや人権に関する懸念が顕在化しました。

開催日：11月9日 日本時間午後8時－9時



Super  
City

J-Tech challenges SDGs